

フェリー情報誌(ご自由にお持ちください)

# さんふらわあ

創刊号



—マイカーをフェリーに載せてラクラク家族旅行—

特集

## 癒しの温泉で湯ったり

インタ  
ビュー

### 松本零士さん

「フェリー」といえば「さんふらわあ」。

長距離フェリーの代名詞となり、今なお商船三井グループの9隻のフェリーにその名前が受け継がれているさんふらわあですが、最初は一代限りで消える可能性もあったようです。

最初に命名されたのは、1972年。当時の日本高速フェリーが1万総トンを超える大型で

# さんふらわあ異聞

高速の画期的なフェリーを、名古屋〜高知〜鹿児島航路に投入しようと川崎重工で建造したフェリーに付けたのが最初です。

実は、その3カ月後に投入する2隻目は、当初「さんらいず」と命名される予定で、まさに白地の中央に上半分、顔を出した真っ赤な太陽と揺れる光芒という船体マークに「さんらいず」の名は最適なものになるはずでした。

ところが、日本高速フェリーは名古屋、高知以外に東京、大阪からもフェリー航路の開設を目指していたから、船の数は2隻で止まるはずがありません。となると「さんらいず」につづく3隻目は、「さんせつと」……。太陽が沈んでしまつては、イメージも悪い。それにさんふらわあは、その豪華さから会社の予想を超えて有名になり、今更……

というので、考えられたのが「さんふらわあ2」という単純な船名でした。

しかし、大型、高速で船客設備も当時の定期航路客船の水準から大きく抜き出していた「さんふらわあ」は、当時船旅チームを作り出し、ブランドイメージ形成という点では大成功でした。以後2年ほどの間に「5」、「8」、「11」と続いて就航したことで、「さんふらわあ」とい

う船名は定着。大型カーフェリーの一般名称のように使われるまでになったのです。

ところで、4という数字を飛ばすのは理解できませんが、3隻目がなぜ「3」ではなく「さんふらわあ5」となったのでしょうか。それは、末広がり縁起がよい数字とされる「8」を船名につけたかったので、はやく8に近づいたために「5」としたと伝わっています。そうになると、5隻目には9はつかえないし、10はピンからキリまで、と終わりの数字。さらに次につなげるために「11」へ……。3つずつ飛ばして11までやってきました。

この高知、鹿児島への航路は、その後ブルーハイウェイライン西日本に受け継がれ、今は大阪から鹿児島県の志布志をむすんでおり、またさんふらわあの名は関西汽船や商船三井フェリーにも受け継がれています。

スロークライフをお手軽にフェリーの旅は

関西汽船株式会社  
商船三井フェリー株式会社  
株式会社ダイヤモンドフェリー  
株式会社ブルーハイウェイライン西日本



世界を動かすこと、それが先頭を走るモノの使命。

商船三井は、海運業界の新しい道を切り開いてきました。資源・エネルギー輸送と製品輸送事業を中核とする総合海運企業として、私たちは常に前進を続けます。“私たちが動けば、世界が動く”——世界を牽引するリーディングパワーがここにあります。

[www.mol.co.jp](http://www.mol.co.jp)

 **商船三井**  
Full Speed Ahead